

水辺を生かした公園づくり

業務部 主事 照井 治子

かつてここでは今村昌平監督の映画『ええじゃないか』（緒方 拳主演）の撮影が行われたこともあり、またご存じ“大岡越前”で有名な縛られ地蔵のある南蔵院も目の前にある。

都立水元公園はそんな東京の下町、葛飾区の北部に位置し、その面積は東京ドームの約13倍もの広さを誇る都内で唯一の水郷景観を持つ公園である。

今から約260年前、徳川幕府 8 代将軍吉宗の時代に江戸の町を水害から守るためにここに遊水地が作られた。通常は灌漑用水の水源として使用されたため、水元という地名はこれに由来しているといわれている。

当時周辺一帯は葛西 3 万石の米産地として知られ、当時の名残りはこの水元地区など数箇所に農耕地として現在も残っている。

この公園の歴史的経緯をみると、まず昭和 5 年に東京都の都市計画により江戸川風致地区に指定され、その 10 年後には水元大緑地として都市計画が決定された。

そして昭和32年には水元公園と名称が変更されて42年の4月に都立水元公園として一部が開園されるに至った。

現在の開園面積は約64ha で当時のおよそ 8 倍ほどに広がった。44年に出された最終的な公園の計画面積では代々木公園の約 3 倍になる予定である。

JR・京成の 2 つの駅がある金町駅から水元公園に向かって建て込んだ商店街、住宅街を抜けると、小合溜の南の端に沢山の太公望の姿が見えてくる。なるほど、“釣仙郷”と言われるゆえんかと納得。

この池の周辺には元来ガマ・カヤ・アシ等が生えていて、その原風景が約 2 ha ほど残されている。ここを歩いて回れるように遊歩道が作られており、手つかずの自然そのままの姿を見ることができる。

この“水辺ゾーン”に代表されるように園内のほぼ3/4は自然を生かし、なるべく自然の姿そのものを残そうという努力がなされており、その場に見合った草木が植えられている。

小合溜は最も深いところで水深が1.3mしかなく、溜め池という性質上そのまま放っておくと水が淀み、濁り、ヘドロが溜まって水質が悪化するという悪循環からはまぬがれない。それに合わせて近年の周辺地域の都市化によって溜池の水が汚れてきているということで、葛飾区によって水質浄化事業が行われている。

ひとつは、ヨシやホテイアオイなどの水生生物を植えて

自然の力で水中の栄養分の調節をしたり、もうひとつはエアレーションといって水中に空気を送ることによって水の流れを作り、藻の繁殖を抑えたり魚の酸欠死を防いでいる。

そして平成 7 年 3 月に完成が予定されている水質浄化センター（＝仮称；水質浄化施設）では近くの中川からポンプで引いた水と小合溜の水を綺麗にしながら循環させる（中川からひいた分の水はその支流の大場川へ）。これが完成すれば池の水量21万 t が 7 日で入れ替わる計算になる。

昭和63年に行われた葛飾区の水質調査の結果に基づき、平成元年からこれらの方策がとられている。

この溜池にはコイ・フナ・ドジョウなど20種類ほどの魚やザリガニ・テナガエビなどが生棲している。

池の回りは、すべてを護岸で固めたり柵で囲ってしまうということではできるだけ避けられ、危険な箇所へは近づかないように水辺から距離を置いたところへプロムナードコース（遊歩道）を設けてあり、上手く人を誘導するように工夫されている。

さいわい開園当初から水の事故も無く、公園を訪れる人々が楽しくかつ安全に過ごせるように十分配慮されているようだ。

また、園内には昭和60年に作られた全長約370m ほどの“せせらぎ広場”があり水深は10～30cmで、子供でも安全に水に入って遊ぶことができる。このような人工的に作られた親水公園なども設置されており、親水公園として多彩な内容が盛り込まれている。



水に入って遊べる“せせらぎ広場”

園内は一周するのに 2 時間半から 3 時間ほどかかる広さがあり、また15～20もの施設が点在している。

この広大な公園の中で一番に挙げたい特色は？とたずねたところ、「やはりバードサンクチュアリですね。水辺へ集まってくる野鳥が数多くいるのでその水辺（＝小合溜）の特性を生かし、これを中心として整備しています。」と管理

事務所長の山本さんはそう語ってくれた。

バードサンクチュアリは園内の北東部にあり、昭和49年～50年に設立され62年に一度改修されている。ここは立入禁止の野鳥保護区域で野鳥が自然の姿のまま生活することができるようになっていて、季節によってかなりの差はあるがここを中心に園内では約100種類、12,000羽の鳥が見られる。

春はヒバリ、夏はサギ・ツバメそして冬はカモ・ツグミ・ユリカモメなどが多く見られる。



一年中見られるバン。くちばしと額が鮮やか。

バードサンクチュアリの北側には水生植物園があって、池を中心にハナショウブ・カキツバタ・スイレンなど約22種類の植物が植えられており、その隣は水生保護区として原生林の生態が保護されている。ここは旧日枝神社の跡地でもある。

この水生植物園は池になっているために魚が紛れ込んでそれを釣りに来る人によって荒らされたり、また、植物が野鳥のエサになってしまう可能性が極めて高いという。

こういった問題は、いまのところただメンテナンスを繰り返すしか解決策が無いということで、管理が非常に難しいようである。

公園内にはこれらの他にも北海道でしか見られないポプラ並木や、1945年に中国で現生種が発見される以前はその化石だけが知られていた“生きている化石”といわれるメタセコイヤの森などがある。

これらも親水公園にふさわしく水郷を好む樹木である。

また、緑の相談所・都立の水産試験所があり、それぞれ植物や魚の育て方について相談や質問・見学などがだれでも気軽にできるようになっている。

このような水元公園を訪れる客層はさまざまで、親子連れから若者・年配者まで全世代にわたっている。

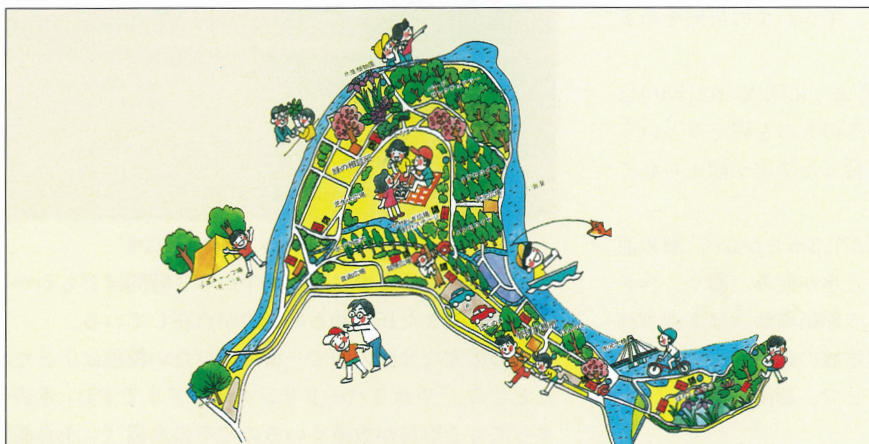
最寄りの駅からかなり離れた場所にあるという条件下でも、駐車場が多数整備されていることもあって年間250万人の利用者があり多くの人々に親しまれている。

毎年6月には花菖蒲まつりが開かれるが、5万株、100万本の都内最大規模の見事なハナショウブに誘われてやってくる人達で大いに賑わいをみせる。

またそれより一足早く、遊水池ができる際に作られた公園西側にある土手のソメイヨシノがおよそ4kmにわたってまさに春満開と咲きほこる。

東京都区内にあつてこうした手付かずの自然の姿を残し水辺に親しめるこの広々とした水元公園を訪れてみてはいかがですか。

きっと、心身ともにフレッシュすると思います。



水元公園管理事務所発行のイラストマップより

交通 JR 常磐線（地下鉄千代田線直通）または京成金町線の金町駅から京成バス戸ヶ先または西水元三丁目行き 水元公園前下車 徒歩7分